

理事長あいさつ



理事長 船越 昇

好決算を喜んでばかりはおられない

5月末の平成19年度第1回通常総会で全会一致承認された平成18年度の事業報告と収支決算は、平成17年度に続いて右肩上がりの内容になり、良好な業績を報告できて大変喜んでいますが、これはひとえに会員みなさんの尽力の賜物であり、精華町を始め関係機関の理解と協力のお蔭であると、心から感謝しています。

契約金額は平成17年度より12%増えて8300万円に達したこともありがたいことですが、契約件数が約3割、186件も増えて870件になったことが何よりもうれしいことでした。増えた件数の3分の2は個人・家庭の分野で占めています。18年度から仕事を始めたふすまや障子、網戸の張替えの仕事60件が新しく付け加わったことにもよりますが、これ以外にも従来の庭木の剪定や掃除などの仕事の注文がどんどん増えています。これは会員の誠実な仕事ぶりが評判を呼んで、口コミによってセンターを利用する住民の数が増えているためです。この結果、地域社会におけるシルバー人材センターの存在感は年々高まっています。地域に役立つ組織こそ私たちが目指しているセンターの姿です。理想像に向かって進歩しているセンターを誇りに思っています。

ただ、万事が順調というわけではありません。一番気になるのが事故件数の増加です。幸い事故の内容は軽微なものばかりでしたが、センターに報告された事故数は22件と、少なくない数字です。統計調査によると、重大事故1件の裏には30件の軽微な事故があるといわれます。軽微な事故とあなどってははいけません。仕事はもちろん、仕事場への行き帰りの道中も気持ちを緩めないで下さい。無事で、安全であることが、家族に対しても、センターにとっても何よりの貢献であることを今一度、肝に銘じておいて下さい。

シルバー人材センターを取り巻く環境は大変厳しくなってきました。18年度の好調が今年度も持続される保証は何もありません。むしろ、19年度はシルバー人材センターにとって曲がり角の年になるという人が大勢います。

その理由の第一は国や地方自治体からの補助金が減らされ、センターの台所を直撃し始めていることです。理由の第二は受注競争が激しくなっていることです。競争原理があらゆる分野に導入され、シルバーだからという甘えは許されなくなってきました。第三の理由は会員の資質の問題です。高齢化現象を反映して、会員の平均年齢は毎年高まっています。これから増えてくる70歳代の会員にどう対処していけばいいのか、全国的な課題です。その上、女性会員が少ないという当センター独自の悩みもあります。

こうした直面する問題解決に取り組む一方、今年度からスタートさせた中期5ヶ年計画にしたがって長期的な課題にも取り組まなくてはなりません。第一段階として19年度は「就業開拓委員会」「安全・適正就業委員会」の設置と、小学校区別の会員懇談会を開く計画をしています。

シルバー人材センターは会員みなさんの組織です。このことを今一度認識して、できる範囲でセンターの運営を盛り立てていって下さい。「自主・自立・共働・共助」というシルバー人材センターの運営理念が基本になることはいまでもありません。